



報道関係者各位



2018年9月3日

## 札幌で今年も開催！「UNHCR 難民映画祭 2018」 9月29日(土)、30日(日) 札幌プラザ2・5にて —トークイベントには国連職員が登壇—

国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所、UNHCR の日本における公式支援窓口である国連 UNHCR 協会は、第 13 回となる「UNHCR 難民映画祭 2018」を開催いたします。日本での難民問題の啓発を目的に、世界中から集めた難民を取り巻く現状をリアルに感じることのできるドラマやドキュメンタリー映画を上映いたします。

今年で 5 回目を迎える札幌の上映は、9 月 29 日(土)、30 日(日)の 2 日間、札幌プラザ 2・5 にて開催。UNHCR 職員が登壇し、難民支援の現場について大学生たちの質問に答えるトークイベントも開催されます。

今年のテーマは「観る、という支援。」です。難民問題に関心のない層にも気軽に参加してもらいたいとの思いで開催し、趣旨に賛同する多くの著名人より応援メッセージが寄せられています。

世界各地で今まさに起きている難民たちの物語をひとりでも多くの方に知っていただくため、ぜひとも告知にご協力いただきますようお願い申し上げます。



UNHCR 難民映画祭 2018  
メインビジュアル

### 「UNHCR 難民映画祭 2018」札幌上映概要

- ◆ 日程 2018年9月29日(土)、30日(日)
- ◆ 場所 札幌プラザ2・5  
(〒060-0062 北海道札幌市中央区南2条西5丁目(狸小路5丁目) )
- ◆ 申込方法 公式サイトまたは往復はがきによる事前申込み(先着順)  
※各回、当日券を若干数ご用意しています。
- ◆ 申込期限 ウェブサイト9月26日(水)、往復はがき9月19日(水)消印有効
- ◆ 入場無料
- ◆ 公式サイト <http://unhcr.refugeefilm.org/2018/>
- ◆ トークイベント「難民支援の現場って? 国連職員に聞いてみよう!」  
9月30日(日)17:45頃から(『君たちを忘れない ~ジョン・ウソンのイラクレポート~』  
& 『ソフラ ~夢をキッチンカーにのせて』上映後)  
UNHCR 駐日事務所の古本秀彦職員が登壇し、札幌在住の現役大学生が難民支援について、国連職員の仕事について質問します。
- ◆ UNHCR 駐日代表のダーク・ヘベカー、国連 UNHCR 協会事務局長の星野守が札幌訪問  
札幌上映に合わせて下記日程で滞在いたします。難民映画祭や難民問題等についての取材を受け付けております。  
ダーク・ヘベカー 9月28日(金)、29日(土)  
星野守 9月30日(日)

【主催】国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所、特定非営利活動法人 国連 UNHCR 協会

【パートナー】独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

【共催】札幌市 【上映協力】札幌プラザ2・5 【後援】公益財団法人 札幌国際プラザ  
札幌市教育委員会 北海道 【特別協力】株式会社北海道アルバイト情報社

## UNHCR 難民映画祭 2018 上映作品 (一部)

### 日本初上映 『ソフラ ～夢をキッチンカーにのせて～』 (2017)

監督：トーマス・モーガン／アメリカ、レバノン／2017年／73分／ドキュメンタリー



© Lisa Madison

レバノンの難民キャンプで生まれ育ったパレスチナ難民のマリアムは、自分の運命に立ち向かうためにケータリングビジネスの起業に挑戦する。その名は「ソフラ」。幾多の困難に直面しながらも、同じような境遇にあるパレスチナ、シリア、イラク難民の女性たちと共に奮闘する日々が続く。人類史上、最大の難民危機で生まれたサクセスストーリーは、絆、希望、勇気、情熱とともに、人々が戦争による心の傷を癒していく姿を描く。

### 日本初上映 『パパが戦場に行った日』 (2016)

監督：ニコル・ヴァン・キルスドンク／オランダ／2016年／90分／ドラマ



平和な日々の中でパン屋を営んでいた父娘に起きた物語。ある日紛争が勃発し、父は娘トーダを祖母に託して兵士として戦場へ向かった。日に日に激化する戦闘。祖母はトーダの命を守るため、母親の住む隣国へ避難させる。母親を訪ねてたった一人の避難の旅。戦闘の光景を目の当たりにしながら、トーダは数々の試練を乗り越えてゆく。

## 著名人からの応援メッセージ

### 茂木健一郎さん (脳科学者・作家・ブロードキャスター)

複雑で理解するのが難しい問題も、映像の力でわかることがある。心にすっと入ってくる。難民という、全人類にとって共通の課題について、映画を通して学ぶことは多い。私たちが、さまざまな認知的壁で見通すことができている世界のありさまが見えてくる。脳の共感の回路が開かれる。難民の物語は、私たち一人ひとりの物語でもある。そのことを実感し、明日の世界への手がかりとするために、難民映画祭に足を運びたい。

他にも以下の方々からメッセージが寄せられています。(五十音順)

AA= 上田剛士さん (ミュージシャン)、荻上チキさん (評論家)、川井郁子さん (国連難民サポーター・ヴァイオリニスト・作曲家)、木村草太さん (憲法学者・首都大学東京教授)、佐藤慧さん (フォトジャーナリスト)、サヘル・ローズさん (女優・タレント)、SUGIZO さん (ミュージシャン)、宗田勝也さん (難民ナウ! -世界の難民速報-代表)、BAROQUE 圭さん (ミュージシャン)、秀島史香さん (ラジオDJ・ナレーター)、村上雅則さん (国連難民サポーター・野球評論家)、安田菜津紀さん (フォトジャーナリスト)、若松英輔さん (批評家・随想家)

### 【取材・難民問題に関するお問い合わせ先】

UNHCR 駐日事務所 広報官 守屋由紀  
Tel : 03-3499-2011 / Email : [jpntorff@unhcr.org](mailto:jpntorff@unhcr.org)

### 【UNHCR 難民映画祭に関するお問い合わせ先】

国連 UNHCR 協会 法人・渉外担当 鈴木タ子  
Tel : 03-6427-7305 / Email : [rff@japanforunhcr.org](mailto:rff@japanforunhcr.org)